

2012年2月17日

中村しげたか

私は、ヨット大好きな四日市在住の全盲の視覚障害者です。

私がヨットに取りつかれて週末に時間が許せば大阪に通うきっかけとなったのは、1998年ごろに北港ヨットクラブの人たちがブラインドセーリングを立ち上げようとしていた時のことでした。

1999年春に行われた第4回OSAKA CUP メルボルン・大阪ダブルハンドヨットレースでは、北港ヨットクラブの人たちと一緒に朝から晩までゴールする船をワッチしたり大阪湾に迎えに出たりといったことが今でも懐かしい思い出です。中でもオーストラリアの障害者セーラーとの出会いは衝撃的でありました。そのレースが生んだ友好がきっかけとなり、アクセスディンギーを用いたカミング&トライという障害者を対象とした体験ヨット教室に、ボランティアで参加していたセイル大阪の人から、大阪市所有のセイル・トレーニング帆船「あこがれ」が、2000年4月、日本の帆船としては初めて東回りヨーロッパ経由の世界一周航海に行くというニュースを教えていただきました。

それが私が、セイル・トレーニングや帆船「あこがれ」の存在を、初めて知るきっかけとなりました。

2003年8月には、帆船「あこがれ」で大阪南港を出入港して大阪湾を周航するセイル・トレーニング1日コースに参加させていただきました。その時はメインマストに昇らせていただき、ものすごく感動したことを今でも鮮明に覚えています。

そして、2008年の夏に榎本武揚没後百周年記念事業として、帆船「あこがれ」が、当時「開陽丸」が江戸（東京）から蝦夷（北海道）へと向かった航跡をたどり、東京から石巻、宮古、函館、江差へ寄港しながら小樽まで航海するというイベントに、私も7月13日から16日まで東京・石巻の3泊4日コースに参加させていただきました。それが「あこがれ」2度目の乗船です。ここでは咸臨丸子孫の会の方々と一緒に様々な体験をさせていただきました。その中で印象に残っていることは太平洋を風力だけの帆走でかなりのスピードで航海したことと「あこがれ」の乗組員が仕掛けていたケンケンで捕えられた1m以上のシーラを夕食に召上がったことです。

こうして、アクセスディンギーや「帆船あこがれ」は、私に多くの人々との出会いと素晴らしい感動をもたらしてくれました。このような活動が今後も引き続き盛大に行われ、多くの人々ととりわけ明日を担う子供たちが体験を通じて得た感動を胸に抱いて生きる力を育んでいくことを願っています。ましてや私のような視覚障害者は写真や映像でバーチャルに見ることはできません。視覚障害者にとっては直接ふれたことや体験したことが全てです。今後とも、『帆船あこがれ』の、活動を継続していただいて、私たち視覚障害者にも大きな感動を与えてください。